

次回講義 フレスコ画 ～最新化学による最古の技法の可能性～

日本の技術が生んだサブミクロン消石灰が実現する、新時代のフレスコ画について

場所: 武蔵野美術大学 2号館 203

日時: 2019年 11月19日(火) 14:40～16:10 (大学院全学科共通科目講義内)

※受講者に、フレスコジクレーサンプル(A4、2枚)をお配りします。(部数に限りあり)

講師: フレスコ画家 ^{ずけらん} 瑞慶覧かおり (株式会社トクヤマ セメント開発グループ漆喰開発チーム協賛)

本学油絵学科卒業後、2012年より、(株)トクヤマの漆喰開発事業と共同開発契約。微小かつ高濃度の消石灰スラリー「微粉碎消石灰」(製造特許)の開発を基に、絵画下地や展色材への製品展開、用途開発に携わる。木製パネルに薄層化形成した漆喰と、微粉碎消石灰のセッコによるフレスコ画を全国におさめる。<http://kawori.main.jp/>

フレスコジクレー ……漆喰のシート化+消石灰の顔料インク受容層 = “フレスコの印画紙”として商品化。

受賞: 日本材料学会 技術賞(2012)、ものづくり大賞 優秀賞(2013)、日本弁理士会 会長奨励賞(2014)

施工事例: 羽田空港、APEC 首脳会議装飾、回向院障壁画、愛知大学壁画、ベゼクリク石窟寺院再現など多数。

<http://fltokuyama.com/frescogiclee/>

講義概要

フレスコ画とは、下地の漆喰が乾く過程で発生する、石灰の炭酸化現象を利用して描く技法です。展色材(絵具にするための接着剤)を必要とせず、顔料そのものの美しい発色を長期間保ち続けることが出来る、唯一の絵画技法です。消石灰が元の石灰岩に戻っていく過程の中で、顔料粒子が石灰の結晶(カルサイト)中に封じ込められて定着します。まるで大理石に入墨を施すような制作工程、長期にわたる色材保存性が魅力です。

(株)トクヤマは世界に先駆け、粒径を極限まで微小(0.1～0.5 μm)にした消石灰、「微粉碎消石灰」を製品化しました。フレスコ画の消石灰は、微粒子であるほど高反応(炭酸化反応が良く)で良質です。微粉碎消石灰は、少量添加でも強い結着力を発揮し、フレスコ絵画層において堅牢な画面を作ります。この技術を基に、以下の商品が生まれました。

- ① 消石灰とマイカを、ベース紙に薄く圧縮塗布して作成した、シート状の漆喰壁紙「漆喰ルマージュ」
- ② 未硬化の漆喰シート①にフレスコ画の原理で顔料インクを定着させる、耐光性に優れた印画紙「フレスコジクレー」
- ③ フレスコ・セッコやテンペラに適した、無機展色材としての微粉碎消石灰「カルセッター」

これらの開発はフレスコ画下地を軽量化し、描画時間の制約を解決します。講義では、古典技法と歴史をご説明し、フレスコ画の基本をお伝えした上で、最新技術を用いた表現の可能性についてお話しします。



Fresco Giclee

フレスコジクレー

ルネッサンス芸術の結晶「フレスコ」を現代に